



2025 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社日清製粉グループ本社

代表者名 取締役社長 瀧原 賢二

(コード： 2002、東証プライム)

問合せ先 執行役員 総務本部広報部長 安達 令子

(TEL. 03-5282-6650)

インドイースト事業における減損損失の計上及び

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績予想と実績値の差異並びに

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

株式会社日清製粉グループ本社（取締役社長：瀧原 賢二、以下「当社」）は、2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）において、当社グループのインドイースト事業に係る固定資産について、減損損失を計上することとなりました。これに伴い、当社が 2025 年 5 月 15 日に公表した 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じました。また、併せて 2026 年 3 月期通期の連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. インドイースト事業における減損損失の計上

当社は、足元のインドイースト事業の状況を精査し、事業計画について再検証を行いました。その結果、当該事業計画を下方修正することとし、これに伴い、2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）にて、固定資産の減損損失 87 億円（51 億インドルピー、1 インドルピー＝1.7 円で換算）を計上することとなりました。

当社グループのオリエンタル酵母工業株式会社（取締役社長：新井 秀夫）のインド子会社である Oriental Yeast India Pvt. Ltd. においては、2022 年のイースト新工場の完成を経て、同年 8 月よりインドイースト市場へ参入いたしました。近年、同国は経済発展に伴いパン市場が目覚ましい成長を遂げており、パン酵母（パン用イースト）の需要も高まっていたことから、日本で長年にわたり培ってきた製造・品質管理ノウハウを活用し、現地に高品質の製品を供給することで、持続的な成長の実現を企図しており、新規参入ながら順調に販売を拡大してまいりました。

しかしながら、ウクライナ情勢等を背景とした各種イースト原料、燃料関連相場が高止まる一方で、競争環境の激化に伴う製品価格転嫁の遅れ等の影響を受けるなか、利益面では計画を下回る状況が続いておりました。この度、足元の厳しい利益水準をベース

に現在の事業計画の実現可能性を慎重に検証し、新たな事業計画を策定したところ、当初の事業計画から大きく乖離することから、減損損失を計上することといたしました。

当社において、世界最大の人口を有するインド市場が有望であるとの見方には何ら変化はなく、パン酵母（パン用イースト）の更なる販売拡大及び製品価格改定の実行や製造コストの低減を着実に行之、また、日本で培った技術に基づく高付加価値製品の投入をはじめ、様々な施策に注力していくことで、インドイースト事業の継続的な業績改善と収益貢献を進めてまいります。

2. 業績予想の修正

（１）2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と実績値の差異

（2025年4月1日～2025年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（Ａ）	435,000	24,000	26,000	19,000	65.58
実績値（Ｂ）	431,310	22,633	24,788	10,325	35.65
増減額（Ｂ－Ａ）	△3,689	△1,366	△1,211	△8,674	－
増減率（％）	△0.8	△5.7	△4.7	△45.7	－
（ご参考）前年同期実績 （2025年3月期第2四半期）	429,513	26,010	27,076	20,363	68.48

（２）2026年3月期通期連結業績予想の修正

（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 （注）
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（Ａ）	870,000	50,000	53,000	39,000	134.61
今回修正予想（Ｂ）	870,000	47,000	50,000	30,000	104.46
増減額（Ｂ－Ａ）	－	△3,000	△3,000	△9,000	－
増減率（％）	－	△6.0	△5.7	△23.1	－
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	851,486	46,380	49,210	34,684	117.33

（注）当社は本年10月30日開催の取締役会において、自己株式の取得を行うことを決議いたしました。2026年3月期通期連結業績予想における1株当たり当期純利益は、当該自己株式の取得の影響を考慮して算定しております。詳細につきましては、同日公表の「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」をご参照ください。

(3) 差異及び修正の理由

2026年3月期第2四半期(中間期)の業績予想と実績値との差異につきましては、上記のインドイースト事業における減損損失計上のほか、海外製粉事業、加工食品事業、及びメッシュクロス事業で業績が予想を下回って推移したことにより、売上高及び利益につきましては、前回発表予想を下回りました。

2026年3月期通期の業績予想につきましては、上記のインドイースト事業における減損損失計上のほか、海外製粉事業、加工食品事業及びメッシュクロス事業での業績回復の遅れ等により、利益を下方修正しております。これら各事業においては、事業環境を踏まえ、上期より拡販、価格改定及びコスト削減等の改善策を進めており、下期にその効果が発現することで、営業利益・経常利益は通期では増益を見込んでおります。

(注) 本資料における上記の予想を含む記述は、発表日現在に入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績・結果は予想数値あるいは見通しと異なる場合があります。今後、業績予想の修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以上